

## 【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】

### 2025年度 最優秀校

刈谷市立朝日中学校

「科学が好きな生徒」を、「失敗を恐れず、自分から考えをもって学びや活動に向かう主体性」、「自分の進む道を、仲間の意見を取り入れながら自信をもって選択・判断する力」、「選択・判断・行動ができるだけの思考力や創造力」の3つを育むことのできた生徒と具体的に定義されており、「正解がないと動けない」という課題に対して、様々な学校活動を通じて研究が行われています。

生徒を育むための手立てを5つに分類し、実践を通じて、それぞれの手立てを丁寧に理解しやすく記述されています。特に、「【手立て1】自分で学び方を選択する」、「【手立て2】学びの価値を実感する場」、「【手立て3】自分で学ぶ内容を選択する」については、生徒が自力で多様な追究方法を見出す過程や変容を詳細に記述されています。アニメなどの身近な事象を使った授業導入や生徒の理解度に合わせた3種類（イージー、ノーマル、ハード）のプリントを準備し、生徒が自然に関心を示したり、必要な知識を主体的に習得したりできるような工夫が随所に見られました。また、社会とのつながりを持つ授業や対話会、教科の垣根を超えた教員の育成など、バランスの取れた幅の広い取り組みを分かりやすく記述されています。

生徒像を明確に定義されているため、今年度の成果と課題（自己決定の場の不足、学校外との連携不足）が具体的に記述されています。そのため、次年度の計画も教科横断的授業つくりや地域行事の企画・運営など実行可能な内容として記述されている点も評価されました。

来年度の「子ども科学教育研究全国大会」に向けて、この姿勢を堅持していただき、生徒が主体的に学び、積極的に対話し、思考力や創造力を発揮できる研究を、他校の範として公開されることを期待いたします。